

理工学研究科（修士（理学）を取得する学位プログラム）アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的にを行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。これにより、目標とする質的水準の達成度を把握するとともに、カリキュラム、個々の授業方法、学習環境および学習支援の充実・改善をはかる。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、理工学研究科のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、「理工学分野における高度な知識・専門技能」・「学識・論理的思考力・俯瞰的視野に基づく課題探求力・解決力」・「高い教養と学識からなる豊かな人間力・発信力」を涵養し、「柔軟な思考と高い適応力のもと、変貌する社会と地球環境を見据え、今日の科学・技術を継承し発展させるのみならず、未来のために新たな価値の創造・実現に貢献できる理工系人材」を育成することを目指している。修士論文については、リサーチ・ルーブリックにおいて、研究テーマの適切さ、独自性、論理性、論文の完成度およびプレゼンテーション能力などの評価項目を評価し、一定以上のレベルに到達したものを合格としている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者アンケート	毎年 1～3月	M2	DP達成状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	理工学研究科 EC会議(理学)	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、研究科のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	授業アンケート	毎年2回	M1およびM2	学習の状況、授業の理解度、授業の満足度など	Webアンケート	理工学研究科 EC会議(理学)	結果をまとめて、授業担当者にフィードバックし、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	修了生アンケート	毎年1回	既修了者	現在の就業状況、在学中の就学状況、培った能力、満足度など	Webアンケート	教育・学生支援機構	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
4	成績不振学生および休退学者の調査	毎年2回	M1およびM2	学業不振および休退学の状況(GPA、修得単位数、休学者数、退学者数)	修学支援システム	教育・学生支援機構/理工学研究科	学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	学生モニター会議	毎年2回	全学年 (学生代表者)	授業・カリキュラム、学習環境および学内施設に関する意見、満足度	インタビュー調査	理工学研究科 学生支援委員会(理学)	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
6	修士論文発表・審査会	毎年2月	M2	研究発表、プレゼンテーション、修士論文	発表会形式	各分野	ルーブリックを用いて修士論文を評価し、教育改善に活用
7	シラバス点検	毎年1回 (2月頃)	M1およびM2	キーワード、到達目標とDPの関係、授業スケジュール、授業時間外学習に関わる情報、成績評価方法などについて点検する	シラバスの原稿	理工学研究科 EC会議(理学)	EC会議でシラバスの原稿を点検し、記載に不備がある場合、担当教員に加筆・訂正を求めることで教育の自己点検と教育改善に活用
8	成績分布状況調査	毎年1回 (3月頃)	M1およびM2	各学期に開講された授業科目の成績分布一覧を確認する	科目別成績分布一覧表	理工学研究科 EC会議(理学)	EC会議で科目別成績分布一覧表を確認し、適正に成績評価がなされているかどうか点検することにより、教育の自己点検と教育改善に活用

9	アカデミックプレゼンテーション発表会	毎年1回	M1またはM2	聴衆に異分野研究者を交えた発表を学生が行い、評価表を用いて異分野研究者と共に評価	評価表	理工学研究科・各分野	ルーブリックを用いてジェネラルプレゼンテーションスキルを評価し、教育改善に活用
---	--------------------	------	---------	--	-----	------------	---